



希望記事

● 給与削減によって、年収もかなりの減収が見込まれ、月々の生活費のほか、退職手当をあてにした住宅ローンの見直しや、子供の学費の新たな借金など、職員からは、多くの不安や戸惑いの声が聴かれます。このことから、ライフプランの見直しをテーマとした記事と併せ、本誌で、こうした全国の自治体職員が置かれている現状を取り上げていただければと感じております。

● 定年延長等で大きく変わるライフプラン。景気など社会経済情勢も変わっていくであろう今後、どのようなライフプランを考えるべきか。

社会経済状況の変化や年金・退職金が見直されていく中で、ライフプランの変更を余儀なくされています。変化に対応できるように、役立つ情報をお届けできないか検討してみたいと思います。

● 退職の時期が数年後に迫っているこの頃、今回の記事にも多少掲載されていた地方職員共済組合のQ&Aの詳細を特集していただきたいと思えます。例えば60歳定年後の年金受取が延長されるまでの期間、幾つかの事例となるライフプランや、退職共済年金受取後の65歳までと、それ以降（退職共済年金+老齢基礎年金受給後）のライフプランなどを幾つかの事例を交えてアドバイスを企画していただきたいと思えます。

掲載できないか、一度検討してみます。

● 職域年金について、2ページくらい費やして細かく説明して欲しい。

紙幅の関係で当コーナーは1ページの掲載となっておりますが、当協会発行のくらしを豊かにするハンドブック「わかりやすい年金」（98ページの「刊行物のご案内」参照）に詳しく掲載しています。

● シングル高齢者が生活していくにあたっての留意点を特集してください。

高齢者限定ではありませんが、シングルのライフプランは次号の「家族構成で考えるライフプラン」で取り上げる予定です。

● 退職を3年後に控えています。そろそろ第2の人生を歩む方向性を考えなければなりません。そこで、今回の記事にもありました「退職者への質問状」で、資格等がなくても十分に充実した退職後の生活を送っているケースなどを取り上げてください。

同コーナーは一昨年4月よりスタートし、今号までに10名の方のネクストステージをご紹介します。当協会のホームページでバックナンバーをご覧いただければ幸いです。

● 最近、「ポジティブ心理学」という分野が注目されています。自分の「成し遂げた」ことに注目していく、実践的なメンタル強化のツールです。ポジティブシンキングとも違います。私も東日本大震災以降、仕事とプライベートでいろいろ悩みを抱えていましたが、優秀な臨床心理士との定期的なカウンセリングを行いながら、ポジティブ心理学で乗り越えました。「ポジティブ心理学」または「臨床心理士とのカウンセリング」についての記事を取り上げると役に立つと思います。

メンタルヘルス不全で休職される方が多い中、ぜひ注目したい手法ですね。

その他「意見」

● Person「赤字バス路線の再生」について、考え方を少し変えることで成功するとの実績はすばらしいものだと思います。

全く同感です。

●NextStageの記事を見て、私も資格に挑戦したいと強く思いました。入庁当初はチャレンジしていたけれど、最近はルーティンに仕事をこなしてしまっていたような…。可能性を広げる心構えやチャレンジ精神、大切ですよ。公務員を退職した時、元公務員として役立つ資格があれば教えてほしいです。

行政職の方は、勤務年数等の制限はありますが、行政書士の資格を試験免除でとることができます。

●様々な情報が飛び交う中、通信の手軽さなどもあって物事の本質をじっくり考えてみるのが少なくなってきたかなど。今回のFamily「青木悦」さんのような記事、内容の紹介を引き続きお願いします。

「同記事中の最後の2行」気をつかわなくて済む場所があつて、よかつた」に、ハッとさせられます。

●「年金Q&A」は今年ならではのコーナーだと思いますが、女性の5年遅れについての説明がなく残念でした。もちろん、すぐ目の前に迫っている男性への情報優先でしょうが、ぜひ、わかりにくい部分を説明してください。

限られた紙面の中ですべてをお届けできなく申し訳ございません。当協会発行のくらしを豊かにするハンドブック「わかりやすい年金」を一度ご覧いただければ幸いです。

●Economy「家計スリムアップ講座」の内容は対象事例が多く、それぞれ項目に対する数値も入りわかりやすく、大変参考になった。

お役に立てて、何よりです。

●共働き夫婦ほどなぜ資産形成が難しいのか、に興味があり、その意味でEconomy「共働き夫婦のライフプラン」はこれまでにない、目から鱗の落ちる秀逸な記事でした。稼ぎがあっても夫婦でライフプランを共有できなければ、お財布の個別化が進むだけだなあと実感しました。

共稼ぎほど、お財布の紐が緩いのかもかもしれませんね。

●「JSE」柳生田さんのがんのお話は大変関心を持って読みました。友人に乳がんにかかった、と言われた直後。私自身も近年は健診の精密検査を受けるようになり、今までは自分自身の悩みだったのです。しかし、患者になった人をどのように思いやるのか、こちらのほうが難しいことと痛感しています。正しい知識は不安を軽くする、とは仕事の上で十分知っていましたが、こうした悩みも正しい判断のための情報を得ることが大切なのだと教えていただきました。

情報が溢れる現代社会において、いかにして必要かつ正しい情報を集めていくかは、案外難しいものですね。

●FROM ALPS「福利厚生支援サービスをはじめます！」の今後の更なる充実を期待しております。

了解しました。今号の表紙裏もご参照ください。

●ローンの借り換えなどマネープランに関することや、生活習慣病・がんなどの健康に関することなど役に立つ情報が一杯あって、良い刊行物だと思いました。

ありがとうございます。今後も、皆様に役立つ情報をお届けできるよう努めてまいります。

通信員からの評価が高かった記事

当誌では、通信員の方に毎号、各記事について「とても良かった」「良かった」「ふつう」「あまり良くなかった」「良くなかった」の5段階評価をいただいています。ここでは「とても良かった」「良かった」の評価が多かった記事をベスト3までご紹介します。

●1位…Health

若さを保ち、心身の活力を向上させ、健康寿命を増進する「時間栄養学」の勧め 香川靖雄

●2位…Interview

遊佐雅美さん Life～人生・生活・ライフセービング～

●3位…Useful Life

すべての人に正しい「がん情報」を—自分、家族、周りの人誰もが正しい「がん情報」を知って、伝えるがん難民・がん情報難民にならないために 柳生田幹久